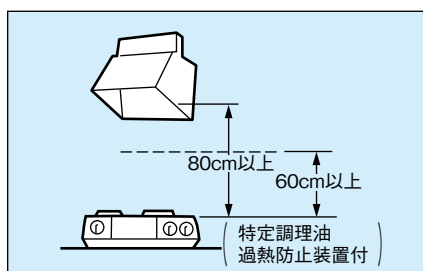
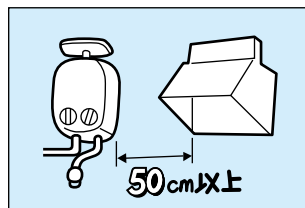
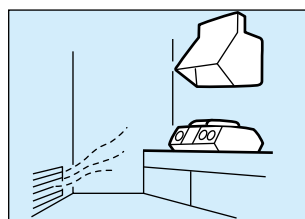
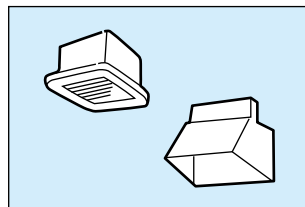
レンジフード

レンジフード施工・使用上のご注意

■設置について

1. 本体は、十分強度のあるところに水平にしっかり取り付けてください。
2. 排気工事を行なう場合、建築基準法（同施工令）および消防法などの関連法規に従って施工してください。
3. 交流100V以外では使用しないでください。
4. 配線工事は、電気設備技術基準や内線規程に従ってください。
5. メタルラス、ワイヤラス、または金属板張りの木造造営物に金属製ダクトを貫通する場合、メタルラス、ワイヤラス、金属板と接触しないように取り付けてください。
6. アース端子付きのタイプは必ずD種接地工事を行なってください。
7. 仕様変更・改造は絶対にしないでください。
8. ガス調理器、電気調理器の真上80cm以上の位置に取り付けてください。

●取付け高さ

東京都火災予防条例の適用地域はグリスフィルターの下端がガステーブルの真上80cm以上必要です。
但し、すべてのコンロが特定調理油過熱防止装置付の場合は、ガステーブルの真上60cm以上となります。

9. ガス給湯器は50cm以上側方に離してください。

10. 給気口を設けてください。
（開口面積100～150cm²が目安となります）

11. 全体換気の必要なところは、他の換気扇との併用をおすすめします。

12. エアコンなどによる横風が直接当たらないようにしてください。
13. 排気用屋外フードには防虫網つきの使用は避けてください。
目詰まりをおこし排気が十分できなくなります。

お手入れについて

1. お手入れの際は、分電盤のブレーカーを切ってください。
感電や怪我をすることがあります。
2. お手入れの際は、ゴム手袋を使用してください。
突起部などで怪我をすることがあります。
3. 高い所での作業は、足元に十分気をつけてください。
4. 製品の変質や変色、塗装のはがれ防止のため、取扱説明書で禁止された洗剤類は使用しないでください。
5. モーターやスイッチなどの電気部品には洗剤や水などをかけないでください。故障の原因となります。
6. 羽根、フィルター、オイルキャッチなどの部品は食器洗い乾燥機で洗わないでください。変色や錆の原因となります。
7. 指定以外の電球は使用しないでください。
過熱によりやけどや故障の原因となります。
8. 蛍光灯型電球は使用しないでください。
ちらつきの原因となります。
9. 羽根を掃除した際は、モーターのシャフトに挿入する部分の水けを十分に取り、潤滑剤などをさしてから取り付けてください。シャフトの錆止めになり、羽根の取り外し性を維持します。
10. オイルキャッチに流れる廃油量は使用条件によってことなります。条件によってはほとんど溜まらない場合もあります。

ご使用について

1. 電気調理器は上昇気流が少ないため、周囲の気流に影響されやすいため、煙の捕集効率が落ちることがあります。
2. 電気調理器をご使用の場合、フード本体が温まりにくいため結露が発生することがあります。その際は滴下するまえにふきとってください。また、フード本体内の結露水がオイルキャッチに多量に溜まる場合があります。こまめに確認して捨ててください。
3. 周囲に壁がない設置プランでは室内空気の対流の影響を受けやすくなるため、煙の捕集効率が落ちる場合があります。
4. ロースター（特に両面焼きタイプ）からは多量の煙が出やすいため、一度に捕集しきれないことがあります。調理後も一定時間換気するなどしてください。
5. メーカー指定の専用フィルター以外は使用しないでください。吸い込みが悪くなったり火災の原因になります。
6. カタログに記載されている性能は定められた一定の条件下での値です。施工条件によって性能は異なります。
7. レンジフードの運転時や停止時に、排気シャッターや給気シャッターから風切り音や笛鳴り音が発生することがあります。
室内外の差圧による現象であり故障ではありません。
8. スイッチロック機能を有した製品は『切』ボタンを長押し（3秒間）すると、スイッチ操作がロックされて風量スイッチや照明スイッチの操作を受け付けなくなります。解除する場合は、再度『切』スイッチを長押ししてください。

詳しくは、製品に同梱されている取扱説明書や工事説明書をご覧ください。